

みどりみらい 3rd Season ぐんじとしのりの議会報告

2011/09/24

Vol.10

西の原 2-3-6-104 TEL/FAX 45-8362

E-MAIL ID : toshigunji@hotmail.com / Twitter : @toshigu

http://www.mmirai.com (HP) <http://togu.seesaa.net/> (ブログ)

平成 23 年第 3 回印西市議会定例会報告 (1) ～ 印西市の放射能問題を考える (1)

いつもお世話になっております。印西市議会第3回定例会（9月議会）は、10月5日（水）迄の会期にて行われています。（現在、一般質問が終了し、休会中です。最終日に向けて、決算審査特別委員会、予算審査特別委員会、常任委員会が開催されています。）

9/6(火曜日)に代表質問に立ちました。 以下、市当局への質問と回答です。

1. 放射線被曝に関する対応について

福島原発の事故を受け、インターネット等では、関東の放射線のホットスポットとして、流山市、柏市、松戸市等の名前が掲載され、一部の雑誌や地図には印西市もホットスポットの一つとして名前があがり、そのために子育て家庭に多大な心配や不安を与えている。放射能汚染・被曝から市民（特に子どもたち）を守ることにについて、印西市はどのような対応をとるのだろうか。

(1) 市民からの問い合わせ、市民への情報発信のために窓口を一本化する必要があると思うが、どのように考えているのか。

(回答/市長) 現在は、関係部門関係各課が協議し、情報を共有することで、市職員が一体となって放射線問題に対応しているところでございますが、現在、市民からの問い合わせや市民への情報発信のために、窓口の一本化に向けて準備を進めております。

<現状> 「放射線対策のため、9月12日から環境保全課内に放射線対策室を設置しました。放射線対策室では、放射線対策や情報の収集などの業務を行います。環境保全課放射線対策室（内線366～368）」・・・職員は3名体制です

(2) 成長期にある子どもたちへの放射線の健康影響について、保護者は、不安を募らせています。印西市は、保育園や幼稚園、学校等の校庭や園庭において、子どもたちが、体に受ける放射線量が、年間で、どの程度までならば、健康への影響が無く、安全であると考えているのか。また、その数値は、毎時に換算するとどの程度になるのか。その数値は、どのような科学的根拠に基づく数値であるのか。

(回答/市長) 文部科学省に於ける基準では学校や幼稚園などで受ける積算放射線量を年間1mSV以下に抑えることを目指し、毎時では、 $1\mu\text{SV}$ を目安として位置づけているところでございます。印西市の状況としましては、これを下回っている状況であり、また、印西市の放射線のレベルにつきましては、健康に影響を及ぼす数値ではないとの専門家の見解でございます。

しかしながら、市といたしましては、子供達への影響を考慮し、安心感を高めるため、現在、放射線量の低減化対策に取り組んでいるところでございます。

<解説> マスコミ発表では今回に限り、除染を要する放射線量の目安を毎時0.3マイクロシーベルト超とする市独自の「暫定基準値」を設け、(除染作業)対策の優先順位を決めた。といたしますが、印西市が目指すべき数値として、私は野田市の毎時0.19 $\mu\text{SV/h}$ と同じにすべきだと代表質問中に主張しました。＝市川市も0.19（これに自然放射線を加えて0.26）です。

(年間1mSVという値は、ICRP(国際放射線防護委員会)が示した安全基準ですが、この基準では全く「内部被ばく」に対して考慮されていません。)

(3) 放射線量が、子どもたちへの健康に影響が考えられる場所については、子どもたちの健康を守るために、放射線の健康影響を減らすために他市でも見られるように重機をいれての「除染」を中心とした対応を図るべきと考えるがどのように対応するか。

(回答/市長) 市としましては、安心して快適な環境づくりのため、現在、小・中学校、幼稚園、保育園におきましては、側溝清掃や砂場の砂の入れ替え作業に取り組むとともに校庭、園庭等の放射線量低減のための表土の剥離などの実証実験に取り組んでいるところでございます。

今後、実証実験の結果と、その後の推移を踏まえて、対応してまいります。

<解説> ママたちから「相対的に数字が低い内野小学校から要望があがっていますが、確実にやってくれますよね？」という質問が私にありました。その中で「数字が低いといっても、それはあくまでも、校庭の中心部で周辺部は高い。周りの花壇や草があるところなどは、0.3台がでるらしいです。学校の脇の道路に葉っぱが溜まっている所は0.6もある。」ということをお聞きし、確実に除染作業をするように市議会で伝えました。(実証実験の結果は2-3週間で出す予定とのこと。)

(4) 「子供たちの事を考えると、別の市に引っ越しするのが良いのかなと考えてしまいます。子供が病気になってから後悔したくないです。」と言った声が聞こえるが、印西市はこのような市民の声にどのように応えていくのか？

(回答/市長) 市としましては、引き続き放射線量の低減化対策に取り組むことと考えております。

放射線等に対する対応について ～ マスコミ発表内容 9/2 (金曜日)

市によると、対策には予備費約3千万円を充当。今回に限り、除染を要する放射線量の目安を毎時0.3 μ SV超とする市独自の「暫定基準値」を設け、対策の優先順位を決める。砂の入れ替えは、市立の全幼稚園、保育園10施設と、8月末の測定で暫定基準値を超えた小・中学校20校、公園の37施設の砂場(全67施設)が対象で、それぞれ15日までに深さ20センチの砂を入れ替える。同時に園庭、校庭で暫定基準値を超えた幼稚園、保育園、小・中学校の計8施設で側溝を清掃する。さらに放射線簡易測定器と教職員用の積算線量計を私立を含む全教育施設で利用できるように準備。現行の定点観測に加え、各施設できめ細やかな線量把握が可能になる。この他、今月中に線量値が相対的に高い3カ所で実証実験を実施。もとの幼稚園、小林北小、大塚前公園で表土除去、天地返し、芝生の深刈りなどを行い、除染に有効な手段を探る。市環境保全課では、「子どもたちの利用施設を優先し、比較的線量の高いところから除染を進めていきたい」とし、今回対象外となった施設についても必要に応じて除染を行う方針。

平成23年第2回印西地区環境整備事業組合 組合議会が開催されます。

10月13日(木曜日) 午前10時から 3階会議室で開催されます。

(当日は、平成22年度の決算認定、平成23年度補正予算の審議と議員からの一般質問が行われる予定となっております。)

* 次期中間処理施設用地の取得案件は当日は提出されません。(平成24年4月臨時議会予定)

(次期中間処理施設用地については、泉・大塚地先への移転が発表されておりますが、組合議会での議決は行っていません。)

この紙面へのご意見に限らず、市政全般へのご提言、ご批判、皆様からのご相談はいつでも承ります。また、この紙面は皆様のお手元に配布するまで地域により、1週間程度の時差が発生することもあり、市政の最新情報を求める方は、私のブログやツイッターをご覧ください。市民参加のまちづくりを引き続き、皆様と行ってまいります。宜しく申し上げます。 ぐんじとしのり